

20023

PCI 治療戦略における Ring like Sign の重要性について検討した 2 症例

【目的】冠動脈 CT 検査における特徴的な所見から PCI における治療戦略を検討しえた 2 症例について報告する。【方法】冠動脈 CT 検査の所見は PCI を行う上で欠くことのできない有用な画像情報となってきた。今回 CT 上 Spotty calcification を有し Ring like Sign という特徴的な所見を持つ 2 症例に対しての PCI を行った。PCI の結果と CT 所見について検討する。【結果】いずれも典型的な労作性狭心症の症例であったが術前の冠動脈 CT で、1 例目は LCX に、2 例目は LAD に、Spotty calcification を伴う Ring like Sign を認めた。CAG 上 LCX 90% 狭窄 (typeB1) 病変に対して、ステントを留置し、後拡張を行ったところ、no flow となり Vf を生じ、除細動にて心拍再開、塞栓除去用カテーテルにて血栓除去を行い治療終了した。後者は CAG 上 LAD 90% 狭窄 (typeB1) 病変に対して、末梢側に血栓捕捉フィルターを留置し、ステントを留置したところ no flow となった。血栓捕捉フィルターを塞栓ごと抜去することで血流は再開し、安全に手技を終了した。【結論】今回の Spotty calcification を有する Ring like Sign は大きな塞栓症になる可能性が高いと考えられ、PCI の手技選択は合併症予防を考慮した手技が必要と考えられ、インターベンションチーム内で十分に討議し、画像部門として治療の支援を行うことが重要と考えられた。

評価 1	評価 2	評価 3	採否
発表日時 月 日 (第 日)	セッション	会場	時 分～ 時 分

受付番号

演題番号